

第78期

# 事業レポート

平成20年11月1日 ▶ 平成21年10月31日



**MIROKU**

株式会社ミロク

証券コード 7983

# グループ 企業理念



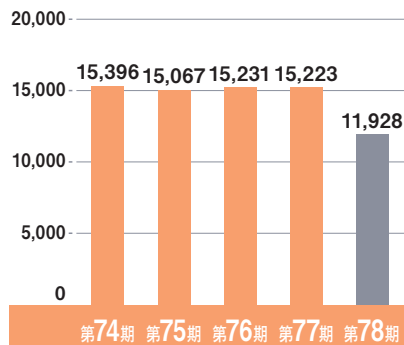
“HONESTY”を貫く真摯なモノづくりで、  
ミロクグループは世界に誇れる企業を目指します。

明治26年の創業から1世紀を超える歴史と伝統に培われた「匠の技」と、  
最新技術の融合が生み出すオンリーワンの商品群。  
美しさや機能、耐久性、そして安全性などの多様で高度なニーズに応えるため、  
何事に対しても頑なまでに正直な姿勢でモノづくりに取り組む。  
ミロクグループは“HONESTY”の精神を貫き、  
世界への飛翔を目指します。

## ハイライト情報 (連結)

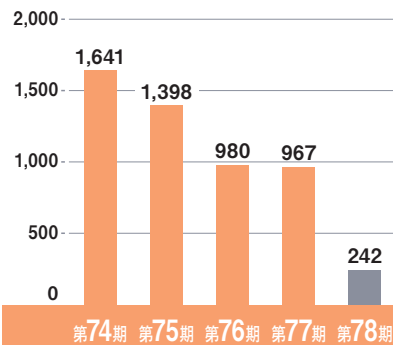
### 売上高

単位：百万円



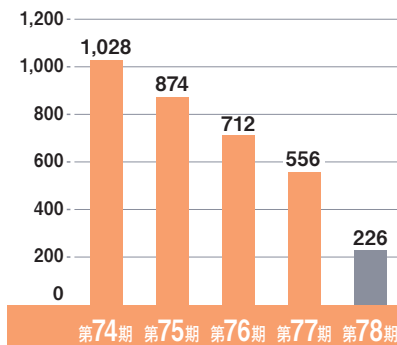
### 経常利益

単位：百万円



### 当期純利益

単位：百万円



# トップ Interview インタビュー

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、  
ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
ここに、第78期（平成20年11月1日から平成21年10月31日まで）  
の事業レポートをお届けいたします。  
今後とも株主の皆様から厚いご指導、  
ご支援を賜りますよう、  
何卒よろしくお願い申し上げます。

平成22年1月  
代表取締役社長 弥勒 美彦

### Q 当期のミロクグループの事業動向は？

A 主力の市場が冷え込み、  
厳しい結果になりました。

当期は世界的な金融市場の混乱を背景に、為替相場は急激なドル安円高となり、株式市場も低迷するなど大変厳しい経営環境が続きました。その結果、企業収益は大幅に減少し、設備投資や雇用情勢はさらに悪化するなど景気は深刻な状況で推移しました。

猟銃事業の主力となる米国市場も、深刻な不況の影響によって可処分所得が減少し、付加価値の高い上下二連銃は販売不振が続きました。一方、比較的安価なボルトアクションライフルは好調に推移しました。しかし、競合他社が値下げ攻勢を強めるなど競争は激化の一途をたどり、売れ行きに陰りが見えてきました。



工作機械事業は、自動車・金型関連業界の設備投資が激減したことを受けて、大幅な減収減益となりました。特に機械部門は平成20年9月のリーマン・ショック以降、受注が停滞しています。そのため、事業の一部を一時休業する決定を下しました。

自動車関連事業も、景気悪化による自動車市場の急速な縮小を受けて、減収減益に陥りました。下半期はエコ

カー減税などの効果もあって新車の販売台数は上向きましたが、前年並みまでの回復には遠く及びませんでした。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は11,928百万円（前期比21.6%減）となりました。利益面では、経常利益242百万円（前期比74.9%減）、当期純利益226百万円（前期比59.2%減）となりました。

## Q 当期において力を注いだことは？

### A 生産体制の強化と 研究開発の推進に努めました。

グループ各社においては、お客様の期待に応えられる製品づくりを目指し、独自性の高い製品の開発や品質向上、また原価低減への取り組みなどに全力を尽くし、グループ一丸となって業績向上に努めました。

（株）ミロク製作所を中心とした猟銃事業では、生産体制の強化と改善に力を尽くしました。まず、イタリアでの彫刻行程が入る「Heritage」を除くすべての銃で、平成21年度の受注分を年度内に納品できました。これは、平成19、20年度に納品遅れを発生したことの反省に立って、現場や関連会社の生産に対する真摯な取り組みを始め、情報交換の促進や納品管理の向上に努めたことが実を結んだものです。また、研究開発面では「3次元成型同時シームレス転写技術による低コスト高意匠製品」というテーマが、経済産業省主催の「地域イノベーション創出研究開発事業」に採択され、研究活動を開始。猟銃製品の複

雑な3次元形状に継ぎ目のないシームレス転写と樹脂成型を同時に行うことで、大幅な原価低減と高精度・高級感のある意匠製品の開発を目指します。

ミロク機械(株)が展開する工作機械事業では、「JIMTOF（日本国際工作機械見本市）2008」に出展したガンドリルマシンの廉価な汎用機に対して、さらに機能を絞り込むなどの改良に着手。それと同時に、需要獲得に向けた新製品の開発にも積極的に取り組みました。

（株）ミロクテクノウッド（持分法適用関連会社）による自動車関連事業では、次世代の収益基盤を担う新製品の開発・提案を推進。（株）東海理化および高知県工業技術センターと共同で、木材に特殊樹脂を含浸させて木目表面の凹凸感を活かしたステアリングホイールとシフトノブを開発し、トヨタ社の高級車に採用されました。

Q 来期の展望をお聞かせください。

A 世界的不況に適応すべく  
事業の効率化を推進します。

来期も、当グループの主力となる市場の回復は期待できそうにありません。それに追い打ちをかけるようにドル安円高の進行が危惧されます。そのような環境変化に適応すべく構造改革を行い、企業の存続・発展に向けた事業の効率化を推進します。

猟銃事業では、品質管理体制の充実と生産体制の見直しを実現するとともに、購買意欲を刺激する魅力的な新製品の開発ならびにモデル別の組織横断活動による原価低減を推進します。また当期、大きな成果を上げた経費削

減プロジェクトも引き続き徹底して行います。さらに、国内の販売体制を再編し、直販へのシフトを進めます。

工作機械事業では、徹底した品質管理による顧客満足度の向上、原価管理・提案営業の強化による収益性の向上、加工部門の営業活動の強化によって利益確保に努める所存です。

自動車関連事業では、徹底したムダの排除による原価低減や次世代戦略製品の開発などを進め、強い企業体質づくりと利益の確保に努めます。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A グループ一丸となって知恵を絞り、  
地道な努力を積み重ねます。

当期の事業環境は非常に厳しいものでしたが、納期の遵守や経費の徹底削減など、社員が力を合わせて成果を上げた取り組みが効果を上げました。それが、私を含めた全社員にとって貴重な財産になっていると思います。来期は、追い風となる条件が皆無の年になりそうです。しかし、グループ一丸となって知恵を絞り、努力を積み重ねることで、必ず道は開けるはずで、それによって、企業の体質は今まで以上に強くなやかになれるでしょう。「企業が強くなるための貴重な試練を与えてくれた」と感謝できるような一年にしたいと思います。

株主の皆様の一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 猟銃事業

売上高  
7,212百万円

売上高  
構成比  
60.2%

### 営業概況

主力の米国市場は、景気後退による雇用状況の悪化で可処分所得が減少し、比較的安価なモデルに需要が移行。高価格製品の上下二連銃は減少したものの、ボルトアクションライフルは好調に推移しました。その結果、売上高は7,212百万円（前期比0.4%増）、営業利益は296百万円（前期比137.0%増）となりました。

来期も主力となる米国および欧州の市場は、景気後退による高失業率が続き、購買力の低下は避けられないでしょう。この厳しい状況を打開すべく、品質管理体制の充実と生産体制の見直しを図ると同時に、購買意欲を刺激する新製品の開発と原価低減活動の推進にグループ一丸となって取り組みます。

#### ショットガン



Citori 625



CYNERGY



BPS

#### ライフル



X-BOLT



BLR



MODEL 1885

## 工作機械事業

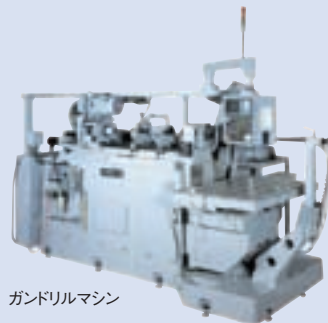
売上高  
1,876百万円

売上高  
構成比  
15.7%

### 営業概況

主要顧客である自動車・金型関連業界の設備投資は、海外景気の下ぶれ懸念から激減しました。この影響を受け、全部門が前期に比べ大幅に減少しました。その結果、売上高は1,876百万円（前期比53.1%減）、営業損失は53百万円となりました。なお、売上高につきましては、セグメント間の内部売上高51百万円を含んでいます。

来期も引き続き、主要顧客である自動車・金型関連業界の設備投資は、非常に厳しい状況が予想されます。受注の減少に歯止めをかけるため、徹底した品質管理による客先満足度の向上、原価管理ならびに提案営業力強化による収益性の向上、賃加工の営業活動強化を推進し、利益確保に努めます。



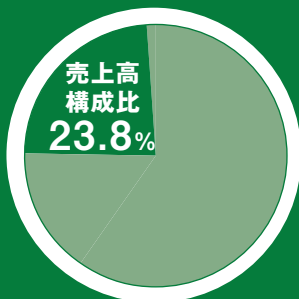
ガンドリルマシン



ガンドリルツール

## 自動車関連事業

売上高  
2,853百万円



### 営業概況

自動車産業は、世界的な景気後退により一時は未曾有の不況に陥りましたが、下半期は買い替え支援策の効果もあって新車販売台数は増加に転じました。しかし、前期の水準までは戻らず、主力の純木製ステアリングハンドルおよびシフトノブの販売数量は前期を下回りました。その結果、売上高は2,853百万円（前期比29.2%減）、営業利益は23百万円（前期比15.3%減）となりました。

来期の新車販売台数は緩やかに増加すると予想されますが、雇用情勢の悪化や海外景気の下ぶれ懸念など、予断を許さない状況が見込まれます。徹底したムダの排除による原価低減や次世代戦略製品の開発などを図り、強い企業体質の構築を目指します。

※自動車関連事業は、持分法適用関連会社である（株）ミロクテクノウッドを中核としており、同事業の発展・成長は、主に持分法投資利益の増加を通じて、当社連結事業に反映されます。



ウォールナット  
（くるみ）製

メイプル  
（かえで）製

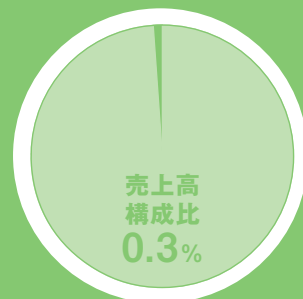


シフトノブ

レバーコンビネーションスイッチ

## その他事業

売上高  
37百万円



### 営業概況

銃づくりの含浸技術を屋外建築用木材に応用したミロクモックル事業は、公共投資などが一層減少したことより、非常に厳しい状況が続いています。その結果、売上高は37百万円（前期比42.7%増）、営業損失は14百万円となりました。

今後は、第4の柱となる事業の創出を目指して、ビジネスの可能性のある事業のタネを探すと同時に、新規事業準備のための専任部署を設けて迅速な対応を図る予定です。具体的には「樹脂成型」「3Dドライ転写」「木工」などの自社技術を使って商品サンプルを作り、新製品の開発と新販路の開拓を推進しています。高知空港の「空の駅」でも新製品を次々に展示・販売していく計画です。



愛知県名古屋市／徳川園



広島県豊田郡本郷町／  
中央森林公園・三景園

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結会計年度末 (平成21年10月31日)	前連結会計年度末 (平成20年10月31日)	科目	当連結会計年度末 (平成21年10月31日)	前連結会計年度末 (平成20年10月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,658,467</b>	<b>6,964,060</b>	<b>流動負債</b>	<b>5,232,796</b>	<b>5,674,969</b>
現金及び預金	1,571,899	1,087,454	支払手形及び買掛金	1,646,900	2,037,104
受取手形及び売掛金	2,469,854	2,830,513	短期借入金	2,400,000	1,800,000
たな卸資産	2,086,879	2,720,776	1年内償還予定の社債	—	200,000
繰延税金資産	42,327	137,731	1年内返済予定の長期借入金	700,000	500,000
その他	512,472	210,061	未払法人税等	60,430	243,733
貸倒引当金	△24,964	△22,476	繰延税金負債	9,147	258
<b>固定資産</b>	<b>8,369,648</b>	<b>8,798,308</b>	賞与引当金	11,824	155,117
<b>有形固定資産</b>	<b>4,743,028</b>	<b>5,242,803</b>	役員賞与引当金	11,150	29,350
建物及び構築物	1,464,633	1,550,755	その他	393,343	709,405
機械装置及び運搬具	1,589,088	1,917,172	<b>固定負債</b>	<b>1,452,640</b>	<b>1,963,412</b>
土地	1,568,295	1,568,295	長期借入金	—	700,000
建設仮勘定	30,313	49,138	繰延税金負債	296,421	156,700
その他	90,697	157,441	退職給付引当金	958,118	927,105
<b>無形固定資産</b>	<b>45,840</b>	<b>58,556</b>	役員退職慰労引当金	198,100	179,606
その他	45,840	58,556	<b>負債合計</b>	<b>6,685,436</b>	<b>7,638,382</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,580,779</b>	<b>3,496,949</b>	<b>純資産の部</b>		
投資有価証券	2,447,496	2,362,430	<b>株主資本</b>	<b>8,044,359</b>	<b>7,906,909</b>
繰延税金資産	475,601	460,753	資本金	863,126	863,126
その他	757,683	817,964	資本剰余金	519,293	519,432
貸倒引当金	△100,002	△144,199	利益剰余金	6,735,558	6,597,660
<b>資産合計</b>	<b>15,028,116</b>	<b>15,762,368</b>	自己株式	△73,619	△73,310
			<b>評価・換算差額等</b>	<b>295,467</b>	<b>211,796</b>
			その他有価証券評価差額金	299,080	211,922
			為替換算調整勘定	△3,613	△125
			<b>少数株主持分</b>	<b>2,852</b>	<b>5,280</b>
			<b>純資産合計</b>	<b>8,342,679</b>	<b>8,123,986</b>
			<b>負債・純資産合計</b>	<b>15,028,116</b>	<b>15,762,368</b>

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自平成20年11月1日 至平成21年10月31日)	(自平成19年11月1日 至平成20年10月31日)
売上高	11,928,245	15,223,805
売上原価	10,674,240	12,885,140
売上総利益	1,254,005	2,338,664
販売費及び一般管理費	1,223,194	1,633,357
営業利益	30,810	705,307
営業外収益	273,672	327,567
受取配当金	15,843	22,552
持分法による投資利益	26,482	177,997
助成金収入	144,078	—
負ののれん償却額	—	243
受取保険金	49,558	—
スクラップ売却益	—	37,125
その他	37,710	89,647
営業外費用	61,581	65,463
支払利息	44,518	48,682
賃貸費用	—	7,999
その他	17,063	8,782
経常利益	242,901	967,410
特別利益	186,440	19,292
貸倒引当金戻入益	9,319	10,383
補助金収入	126,347	—
受取保険金	48,179	8,684
その他	2,594	225
特別損失	13,455	73,304
固定資産除売却損	1,938	4,392
減損損失	11,517	16,940
投資有価証券売却損	—	7,774
投資有価証券評価損	—	44,196
税金等調整前当期純利益	415,885	913,399
法人税、住民税及び事業税	102,568	429,421
法人税等還付税額	△74,729	—
法人税等調整額	163,733	△71,726
法人税等合計	191,572	357,694
少数株主損失	2,427	459
当期純利益	226,740	556,164

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自平成20年11月1日 至平成21年10月31日)	(自平成19年11月1日 至平成20年10月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	969,947	1,154,921
投資活動による キャッシュ・フロー	△245,967	△547,844
財務活動による キャッシュ・フロー	△234,291	△485,132
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△5,243	△11,021
現金及び現金同等物の 増加額	484,444	110,921
現金及び現金同等物の 期首残高	1,087,454	976,532
現金及び現金同等物の 期末残高	1,571,899	1,087,454

## 連結株主資本等変動計算書 (自平成20年11月1日 至平成21年10月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計	
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
平成20年10月31日残高	863,126	519,432	6,597,660	△73,310	7,906,909	211,922	△125	211,796	5,280	8,123,986
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△88,843		△88,843					△88,843
当期純利益			226,740		226,740					226,740
自己株式の取得				△679	△679					△679
自己株式の処分		△139		371	231					231
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額(純額)						87,158	△3,487	83,670	△2,427	81,243
連結会計年度中の変動額合計	—	△139	137,897	△308	137,449	87,158	△3,487	83,670	△2,427	218,692
平成21年10月31日残高	863,126	519,293	6,735,558	△73,619	8,044,359	299,080	△3,613	295,467	2,852	8,342,679

1

## 新潟国体で川辺貴典が大活躍

ミロク製作所の川辺貴典は、平成21年開催の新潟国体でクレー射撃に出場し、トラップ団体で3位に入賞しました。川辺は25枚のクレーのうち24枚に命中させる高得点をマーク。自ら目標とした90点を超えるチーム最高の92点を叩き出し、大躍進の原動力になりました。また、個人では7位入賞、天皇杯得点でも5位にランクイン。

会場となった長岡国際射撃場は、狙いにくい角度でクレーが発射されるため、難易度は相当高いとされます。そこでの高得点に川辺は「今日はでき過ぎ」とうれしそうでした。



2

## 「空の駅」でミロクの製品を展示・販売

高知空港に南国市の特産品を展示・販売するアンテナショップ「空の駅」が平成21年10月にオープンしました。空港2階の飲食店や土産店が並ぶ一角に設置され、名称は“土佐のまほろば”と称される南国市にちなんで「なんこくまほら」。同市の特産品をPRして、産業を活性化させることが狙いです。

ここで、ミロクは自動車関連事業が生産する純木製ステアリングハンドルと同じ木材で作った名刺入れなどを展示・販売します。第4の柱となる新事業の創出に向けて、新たに開発した商品も順次販売する計画です。

同ショップは年間売上高1億円を目指し、南国市を全国に売り出す情報発信に努めております。



3

## 前川裕氏が黄綬褒章を受賞

ミロク製作所に勤務し、退職後も嘱託社員として猟銃づくりに情熱を注いだ前川裕氏が、平成21年度春の褒章で黄綬褒章に輝きました。前川氏は猟銃の組み立てや仕上げに従事して約50年。鉄の塊をヤスリで小さくなるまで真っすぐに削る訓練を通して、銃身の端を1,000分の1単位の精度で削る技術を身に付けた熟練工です。

この技術を駆使して、銃身とフレーム（機関部本体）の接合面をぴたりと合わせる「ゼロ嵌合」が評価され、平成17年には「現代の名工」としても表彰されています。嘱託を最後に平成20年に退職した前川氏は「先輩の方々のおかげで技術が習得できました。一人で取れた賞ではありません」と受賞の感想を語りました。

# 会社概況

(平成21年10月31日現在)

## 会社概要

社 名：株式会社ミロク  
Miroku Corporation

所在地：高知県南国市篠原537番地1

設立：1946(昭和21)年7月5日  
2003(平成15)年5月1日持株会社化

資本金：863,126千円

従業員数：515名(連結対象子会社含む)

事業内容：**猟銃事業**  
猟銃の製造および販売

**工作機械事業**  
深孔加工機等工作機械・工具の製造  
および販売

**自動車関連事業**  
自動車用部品の製造および販売

**その他事業**  
木工製品の加工および販売

## 役員

代表取締役社長：弥勒 美彦

代表取締役専務：田中 勝久

取締役 役：四手井 洋一

取締役 役：荒井 瑞夫

取締役 役：チャールズ・グブラメント

取締役 役：近藤 久視

取締役 役：堀川 洋幸

取締役 役：ジャン・ピエール・ワレマック

常勤監査役：深見 裕夫

監査役：山本 吾一

監査役：加藤 康彦

監査役：大西 俊郎

## 連結子会社

株式会社ミロク製作所  
株式会社ミロク精工  
株式会社香北ミロク  
株式会社梶原ミロク  
ミロク機械株式会社  
MIROKU MACHINE TOOL, INC.  
株式会社馬路ミロク

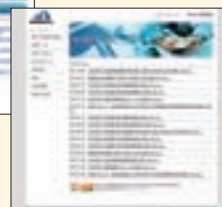
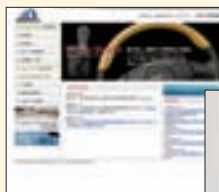
## 関連会社

株式会社ミロク工芸  
株式会社ミロクテックウッド  
T&M USA, INC.  
株式会社特殊製鋼所  
株式会社ミロク興産

### ※ホームページのご案内

企業・製品・採用情報のほか、投資家情報コーナーも充実させ、財務データや決算短信などを公開しています。銃づくりの工程を分かりやすく紹介した「バーチャル工場見学」も好評です。ぜひご覧下さい。

URL <http://www.miroku-jp.com/>



## 株式情報

(平成21年10月31日現在)

## 株主メモ

### 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,027,209株
株主数	1,535名

### 大株主(上位10名)

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
エムエルピー エフエス カストディー (常任代理人 メリルリンチ日本証券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
ミロク共栄会	629	4.2
株式会社西島製作所	577	3.8
日油株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0
日本生命保険相互会社	444	3.0

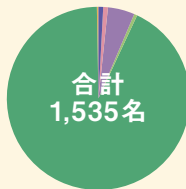
(注1) 第1順位のエムエルピー エフエス カストディー(名義人)の所有株として記載した1,474千株は、当社筆頭株主であるブローニング・アームズ・カンパニーが実質株主として所有しております。

(注2) 第6順位のミロク共栄会は、当社グループの取引先企業(21社)が会員となり、定期的に株式を購入している持株会であります。

### 株式分布状況

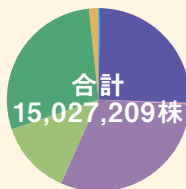
#### 所有者別株主数

■ 政府・地方公共団体	1名 (0.1%)
■ 金融機関	13名 (0.8%)
■ 金融商品取引業者	12名 (0.8%)
■ その他の法人	75名 (4.9%)
■ 外国法人等	8名 (0.5%)
■ 個人・その他	1,425名 (92.8%)
■ 自己名義株式	1名 (0.1%)



#### 所有者別持株数

■ 政府・地方公共団体	45,600株 (0.3%)
■ 金融機関	3,815,623株 (25.4%)
■ 金融商品取引業者	41,417株 (0.3%)
■ その他の法人	4,631,494株 (30.8%)
■ 外国法人等	1,979,245株 (13.2%)
■ 個人・その他	4,290,956株 (28.5%)
■ 自己名義株式	222,874株 (1.5%)



事業年度：毎年11月1日から翌年10月31日まで  
基準日：定時株主総会 10月31日  
剰余金の配当 期末 10月31日  
中間 4月30日

株主名簿管理人：〒100-0005  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：〒541-8502  
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777(通話料無料)

特別口座管理機関：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先：〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777(通話料無料)

公告方法：電子公告の方法により行います。  
ただし、やむを得ない事由により  
電子公告をすることができない場合は、  
日本経済新聞に掲載します。

電子公告掲載URL  
<http://www.miroku-jp.com/>

単元株式数：1,000株

証券コード：7983

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社  
株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)  
0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

 株式会社ミロク  
MIROKU

高知県南国市篠原537番地1  
TEL:088-863-3310



このレポートは、環境に配慮し、大豆油インキを使用しております。